

神美民話 【福の神様 大森神社】

三宅部落の上の田んぼの中に、竹やぶと森とにかこまれた小高い丘があり、その上に大森神社が祭られていたが今年(昭和四十九年)春の圃場基盤整備のため神社は中嶋神社境内に移転しその跡地は樹木を切り払い整地して水田としてしまった。

大森神社は福の神様として崇敬され、正月の最初の寅の日には早朝に参拝して福を授かったものである。

明治の初め頃、三宅の或る人が初寅の日の早朝、まだ誰も参らない時に参り祈願して帰ろうとすると、神社の境内の木の子に一文銭がかかっていた。これは不思議、神様からの授かり物であろうと大喜びで頂いて持ち帰った。

それ以後、その家は幸運に恵まれ経済的にも伸びて行ったとのこと、これは全く福の神様だとのことである。

以前道路が改修されるまでは、大森神社の丘の下に道路があり、神社の棟札の弘化四年にこの丘の上を平らにしてここに神社を祭ったのではなかろうか、この度のこの丘の発掘調査によって、ここがもと古墳であったことは確かで、石棺の基部及び土器が出土した。

大垣三郎記 「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より

【中嶋神社(立石)】

10月18日午後、三宅の中嶋神社より神輿が渡御し、翌日早朝帰還する習わしがあったが、戦争により中断し現在も行われていない。

現在の建物は、昭和時代(?)に本殿を改修、最終平成4年籠もり堂を立石地区氏子により新築され現在に至っている。

“立石の民を見守る田道間守” (神美村誌)

クイズ【1】のヒント

